

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	音楽劇
----	----	----	-----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじん びわこげいじゆつぶんかざいだん		団体ウェブサイトURL
	公益財団法人 びわ湖芸術文化財団		https://www.biwako-hall.or.jp/
代表者職・氏名	理事長 村田和彦		
制作団体所在地	〒 520-0806	最寄り駅(バス停)	JR膳所駅
	滋賀県大津市打出浜15-1		
電話番号	077-523-7133		
ふりがな 公演団体名	びわこほーるせいがくあんさんぶる		団体ウェブサイトURL
	びわ湖ホール声楽アンサンブル		https://www.biwako-hall.or.jp/about/ensemble
代表者職・氏名	監修・びわ湖ホール芸術監督 阪 哲朗		
公演団体所在地	〒 制作団体に同じ	最寄り駅(バス停)	制作団体に同じ
	制作団体に同じ		
制作団体 設立年月	1996年4月		
制作団体組織	役員		団体構成員及び加入条件等
	理事長:村田和彦 常務理事:萩原智行 業務担当理事:竹村憲男 理事:小笠善通、河本紗代子、佐藤健司、高田清雄、 高橋祥二郎、中谷 満、仲間裕子、藤野一夫、本田啓 子、森西真弓 監事:石河康久、櫻田 満		理事長 1人 県派遣職員 6人 専任職員 45人 有期雇用職員 34人 声楽アンサンブル※ 14人 合計 100人 ※加入条件:音楽大学卒業以上または同等の能力を有する 者で満30歳以下の者
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者 を置く	本事業担当者名	藤原望美
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	萩原智行
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	project@biwako-hall.or.jp		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>【団体沿革】 1996年4月 財団法人びわ湖ホール設立 1998年3月 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール竣工、同年9月開館 2006年4月 指定管理者指定(5年間) 2011年4月 公益財団法人に移行、指定管理者指定(2期目、5年間) 2016年4月 指定管理者指定(3期目、5年間) 2017年4月 公益財団法人びわ湖芸術文化財団に名称変更(財団統合) 2021年4月 指定管理者指定(4期目、5年間)</p> <p>【受賞歴】 2006年1月 文化庁芸術祭優秀賞受賞『十字軍のロンバルディア人』 2007年1月 文化庁芸術祭音楽部門優秀賞受賞『スティッフエリオ』 2008年1月 文化庁芸術祭音楽部門大賞受賞『海賊』 2011年1月 文化庁芸術祭音楽部門優秀賞受賞『ルル』 2013年1月 地域創造大賞(総務大臣賞)受賞 2017年11月 滋賀県文化賞(びわ湖ホール声楽アンサンブル) 2019年1月 文化庁芸術祭音楽部門優秀賞および三菱UFJ信託音楽賞受賞『ジークフリート』 2020年10月 菊池寛賞受賞『神々の黄昏』 2021年6月 ENEOS音楽賞受賞 2023年7月 佐治敬三賞受賞「北村朋幹 20世紀のピアノ作品」</p>		
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>◆オペラ「泣いた赤おに」 浜田廣介原作、松井和彦作曲 子供向けオペラ「泣いた赤おに」をびわ湖ホール声楽アンサンブルのメンバーがソリストを務めて上演しています。 2009年度から2023年度まで滋賀県内ホール(学校鑑賞公演)、学校等にて80公演上演。</p> <p>◆学校巡回公演(音楽鑑賞) 滋賀県内の学校に出かけて、約1時間の本格的な音楽公演を体育館等で行っています。 2001年度から2023年度までのべ221校53,450名の児童が鑑賞。</p> <p>◆ふれあい音楽教室 声楽アンサンブルのメンバー2人とピアニストが滋賀県内小学校の音楽の授業に出かけ、ミニコンサートや合唱指導を行います。 2001年度から2023年度までのべ341校22,362名の児童が体験。</p> <p>◆びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！ 滋賀県内の学校を対象としたオーケストラ公演を実施し、生の音楽と劇場の魅力を伝えます。オーケストラは、日本を代表する楽団である京都市交響楽団の協力を得ています。 2011年度から2024年度までのべ1,429校101,213名の児童が鑑賞。</p> <p>このほか、学校からの依頼に応じて、芸術鑑賞公演を企画・実施しています。</p>		
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>上記「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！」にて特別支援学校の参加を積極的に受け入れています。 2011年度から2024年度までのべ99校4,117名が鑑賞。</p> <p>◆ホスピタルコンサート 滋賀県内の病院、福祉施設を会場として演奏会等を行い、病気療養中など様々な理由で生の音楽にふれる機会の少ない方に心穏やかな時間を過ごしていただく機会を提供しています。 2016年度から2023年度までのべ23施設2,018名が鑑賞。</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/LYbVJ_dnTRs</p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p>なし</p>
		<p>PW:</p>	<p>なし</p>

別添	なし
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 びわ湖ホール声楽アンサンブル】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	子供向けオペラ「泣いた赤おに」			
企画のねらい	「泣いた赤おに」は、道徳の授業教材として多く使用されるほか、国語の教科書にも掲載されており、児童の心の成長の助けとなる作品です。登場人物の関わり合い方や行動、その背景について様々な立場の視点から考えることができ、身近にあり得る偏見や差別などの人権問題をはじめ、真の友情、真の融和とは何かを考えるきっかけを与えてくれます。児童の成長過程で、相手の立場に立って考え、気持ちを理解し、お互いを思いやることの大切さを感じ取るすることができます。音楽・国語・道徳など教科を横断した学習にも繋げていただくことをねらいとしています。			
演目概要・演目選択理由	オペラ「泣いた赤おに」は、浜田廣介の児童文学を原作に、松井和彦が構成・作曲した子供向けオペラです。よく知られた原作に親しみやすい音楽が合わさり、物語の流れや登場人物の心情が児童にもわかりやすく効果的に表現されています。登場人物のキャラクターもはっきりと描き分けられ、物語の背景を理解する一助となっています。この作品を児童の鑑賞に相応しい芸術性の高いプロダクションとして創り上げることで、総合芸術としてのオペラを気軽に楽しみながら感性を磨き、学習に役立てられるものと考えます。			
児童・生徒の参加又は体験の形態	物語の途中で登場人物の呼びかけにより、簡単な手遊び歌を全員で行います。客席にいながら参加することができ、物語の一員として話のなかに入り込めます。舞台上と客席にいる全員で一緒に行くことで、生の舞台の一体感を味わうことができます。手遊び歌は事前のワークショップなどでも練習します。 また、事前の準備が十分に確保できる学校については、手遊び歌の場面を中心に、ステージ上でも共演することができます。学校の希望に合わせて参加、共演の形態を調整いたします。			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	100名程度まで(会場規模により応相談)	
		鑑賞人数目安	1,000名程度までの会場規模が適当	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	オペラ「泣いた赤おに」(全1幕/日本語上演) 原作: 浜田廣介 作曲: 松井和彦 演出: 中村敬一 公演時間 60 分			
出演者	指揮: 大川修司(びわ湖ホール声楽アンサンブル指揮者) 出演: びわ湖ホール声楽アンサンブル(キャスト7人)、ピアニスト2人(1台4手の連弾)、打楽器奏者1人 びわ湖ホール声楽アンサンブル 監修: 阪哲朗(びわ湖ホール芸術監督) 名誉指揮者: 田中信昭 桂冠指揮者: 本山秀毅 指揮者: 大川修司 【専属メンバー】 小林由佳、佐々木真衣、高田瑞希、山岸裕梨、岩石智華子、徳田あさひ、山内由香、有ヶ谷友輝、有本康人、奥本凱哉、福西仁、大野光星、平欣史、西田昂平 【ソロ登録メンバー】 阿部奈緒、飯嶋幸子、岩川亮子、上木愛李、上田祥子、江藤美保、大川 繭、大垣加代子、基村昌代、熊谷綾乃、熊本裕子、栗原未和、黒澤明子、黒田恵美、小林あすき、小林久美子、坂田日生、佐藤路子、嶋田友里恵、清水芳子、白根亜紀、鈴木 望、田島茂代、田中千佳子、谷村由美子、中嶋康子、林 育子、日比直美、平尾 悠、藤居知佳子、藤村江李奈、船越亜弥、本田華奈子、益田早織、松下美奈子、溝越美詩、森 季子、山際さみ佳、山田知加、吉川秋穂、脇阪法子、渡辺玲美、相沢 創、青柳貴夫、市川敏雅、内山建人、梅原光洋、角地正範、川野貴之、菊田隼平、河野知久、五島真澄、島影聖人、清水徹太郎、下岡輝永、砂場拓也、竹内公一、竹内直紀、谷口耕平、津国直樹、葛谷明夫、林 隆史、坂東達也、古屋彰久、増田貴寛、松本晃、松森 治、的場正剛、美代開太、宮城朝陽、宮城島 康、迎 肇聡、安田旺司、山本哲也、山本康寛			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<ul style="list-style-type: none"> ・大川修司(指揮) 国立音楽大学卒業。新国立劇場、日生劇場、東京二期会、兵庫県立芸術文化センター、愛知芸術文化センター、宮崎国際音楽祭などでオペラの音楽スタッフ、合唱指揮を務める。びわ湖ホールでは、オペラへの招待『ラインの黄金』や、近江の春 びわ湖クラシック音楽祭2018かがり火オペラ『ディドとエネアス』など様々な公演の指揮を務め、好評を博している。 ・中村敬一(演出) 武蔵野音楽大学、同大学院で声楽を専攻。卒業後、舞台監督集団「ザ・スタッフ」に所属してオペラスタッフとして活躍。文化庁派遣在外研修員としてウィーン国立歌劇場にてオペラ演出を研修。帰国後、数々のオペラ演出を手がけ、びわ湖ホールでは「オペラへの招待」(旧・青少年オペラ劇場)、「プロデュースオペラ」など多数演出。 ・阪哲朗(監修) 京都市立芸術大学作曲専修を卒業後に渡欧。ウィーン国立音大指揮科在学中にピール歌劇場専属指揮者となり、これまでに、アイゼナハ歌劇場音楽総監督、山形交響楽団首席客演指揮者、レーゲンスブルク歌劇場音楽総監督を歴任。第44回ブザンソン国際指揮者コンクール優勝。現在、びわ湖ホール芸術監督、山形交響楽団常任指揮者、京都市立芸術大学音楽学部指揮専攻教授。 			

本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	出演者: 11 名	運搬	積載量: 3 t
	スタッフ: 13 名		車 長: 7 m
合 計: 24 名	台 数: 1 台		

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		-	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時45分	9時～12時30分	13時30分 ～14時30分	なし	15時～16時	16時15分
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期について は、採択決定後に確認し ます。(大幅な変更は認め られません)	6月	7月	8月	9月
	0日	0日	0日	10日
	10月	11月	12月	1月
	17日	18日	0日	0日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



(図1) 正面から見た冒頭のセットアップ。舞台美術・装置は、基本的に体育館等のステージ上に配置します。舞台設置に必要なステージ上の面積：約3m～×8m～(これ以下の広さでも応相談です)



(図2) 楽器の配置写真。
ピアノ、打楽器、指揮者は、基本的にステージ下のフロアに設置します。(ピアノの位置は応相談)

著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	楽曲、装置、衣裳
	該当事項がある場合 権利者名	松井和彦 (楽曲) 野崎みどり (装置) 下斗米雪子 (衣裳)	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 びわ湖ホール声楽アンサンブル】

ワークショップのねらい	<p>オペラや作品について事前に学ぶことで、学習効果を高めることが期待できます。また、本公演に出演するキャストが出向き、オペラ歌手という職業を仕事としている人に出会うことで、歌を歌うことが仕事になるということを知ってもらい、オペラそのものにも興味関心を持つきっかけとします。</p> <p>オペラ以外の曲も用意し、生の演奏を通して子供たちと直接触れ合うことで、マイクを使わず会場いっばいに声を響かせるオペラ歌手の歌声を体感してもらいます。オペラやオペラ歌手を身近に感じることで、子供たちの公演への興味を駆り立て、舞台に一層親しみを持ってもらえると考えます。</p>														
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	クラス毎 ～ 100名程度まで(会場規模により応相談)												
ワークショップ実施形態及び内容	<p>◆ワークショップ「ふれあい音楽教室～泣いた赤おに～」</p> <p>オペラ歌手を職業とする声楽家が音楽の授業を行います。</p> <p>「歌手ってどんな仕事?」「オペラってなに?」「泣いた赤おにってなに?」の3つの「?」を柱に、ミニコンサートなどの実演を交えてわかりやすく説明します。</p> <p>また、声の出し方や歌う姿勢など普段の歌い方の参考になる指導内容に加え、劇中で参加して歌う歌や振り付けを覚えます。歌に合わせて、身振り手振りを付けた覚えやすいものなので、全学年が参加することができます。</p> <p>コンサート鑑賞や歌唱指導を通じて、歌声に対する生徒の関心を高めることを目指し、公演当日への期待を膨らませます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノのある部屋（音楽室等）で実施、電子ピアノでも可 ・1回1時間程度 ・1回100名程度まで ・1日3回まで実施可能 <p>【基本的な構成】</p> <table border="1" data-bbox="443 1120 1417 1706"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>校歌</td> <td>普段から慣れ親しんでいる校歌をプロの歌手が歌ってみます</td> </tr> <tr> <td>お話 ・自己紹介 ・オペラってなんだろう</td> <td>・“歌うこと”が仕事だということ ・オペラの特徴をわかりやすく説明</td> </tr> <tr> <td>声の特徴を聴いてみよう ・オペラアリア（男声・女声・重唱） ・日本語の歌</td> <td>・何語で歌ったでしょう？ など交えて ・日本語の歌の美しい響きを直に感じていただきます</td> </tr> <tr> <td>「泣いた赤おに」紹介 ・あらすじ紹介等 ・手遊び歌をみんなですてみよう</td> <td>・まずは作品を知っていただく ・劇中で参加する場面がある ・発声の仕方、歌う体の姿勢なども指導</td> </tr> <tr> <td>質問コーナー</td> <td>・歌手もピアニストも何でも答えます</td> </tr> </tbody> </table>			内容	ポイント	校歌	普段から慣れ親しんでいる校歌をプロの歌手が歌ってみます	お話 ・自己紹介 ・オペラってなんだろう	・“歌うこと”が仕事だということ ・オペラの特徴をわかりやすく説明	声の特徴を聴いてみよう ・オペラアリア（男声・女声・重唱） ・日本語の歌	・何語で歌ったでしょう？ など交えて ・日本語の歌の美しい響きを直に感じていただきます	「泣いた赤おに」紹介 ・あらすじ紹介等 ・手遊び歌をみんなですてみよう	・まずは作品を知っていただく ・劇中で参加する場面がある ・発声の仕方、歌う体の姿勢なども指導	質問コーナー	・歌手もピアニストも何でも答えます
内容	ポイント														
校歌	普段から慣れ親しんでいる校歌をプロの歌手が歌ってみます														
お話 ・自己紹介 ・オペラってなんだろう	・“歌うこと”が仕事だということ ・オペラの特徴をわかりやすく説明														
声の特徴を聴いてみよう ・オペラアリア（男声・女声・重唱） ・日本語の歌	・何語で歌ったでしょう？ など交えて ・日本語の歌の美しい響きを直に感じていただきます														
「泣いた赤おに」紹介 ・あらすじ紹介等 ・手遊び歌をみんなですてみよう	・まずは作品を知っていただく ・劇中で参加する場面がある ・発声の仕方、歌う体の姿勢なども指導														
質問コーナー	・歌手もピアニストも何でも答えます														
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>会場は集合人数等の都合により体育館等での実施も可能です。実施時間についても学校側の希望と調整可能です。</p>														

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名 びわ湖ホール声楽アンサンブル】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>優れた芸術に触れて感動を味わう体験をすることは、将来の社会と文化を形づくる担い手である子供たちの感性や豊かな人間性を育む上で大変重要です。舞台芸術を通して、多角的なものの見方や感じ方、人物の気持ちや背景を考え、表現すること等、様々な力を身につけるきっかけとなります。</p> <p>「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)」は、国内津々浦々の学校教育の場においてその機会を提供することができ、わが国の将来の文化力と人間力の向上に資する重要な事業であると考えます。</p> <p>当財団では、子供たちが舞台芸術に直接触れる機会を提供することにより、舞台芸術への関心を高め、芸術を感じる心や創造性を育むことを目指し、子供たちを対象とした事業を複数実施しています。</p> <p>今回申請するオペラ「泣いた赤おに」は、この趣旨のもと2009年から制作・実施していますが、綿密な稽古を積み重ねて精度の高い舞台を創り上げても年度内に実施できる数は限られており、体験した児童や先生方から喜んでいただいているだけに、より多くの児童にこの舞台を届けたいと強く感じています。</p> <p>しかし、私どもの財団単独では実施の広がり限界があるため、本事業に申請いたしました。専属歌手と劇場の稽古場を活用し、十分な稽古を確保して質の高い公演を提供します。様々な生活背景を持つ子供たちに多角的なアプローチができる総合芸術のオペラを通して、若い声楽家ならではの感性で子供たちの心の琴線に触れる歌声を全国各地に届けたいと強く願っています。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>当財団がこれまでに培ってきたノウハウを活かし、それぞれの学校の実情に合わせて柔軟に対応します。開催校に調査票などを送付し、事前のヒアリングで各学校の様子を正確に把握します。ワークショップ、本公演ともに各学校のニーズに合わせた内容を盛り込み、公演実施のための事前準備、公演鑑賞のための学習も一緒に行っていきます。</p> <p>◎実施までの流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリング 各学校へヒアリングシート(調査票)を送付(児童の様子や学校側の希望などを記入) 状況や要望に応じて、ワークショップの内容や進め方を検討・調整 ↓ ◆ワークショップ◆ ワークショップでは、共演や鑑賞の手助けとなる知識を交えたお話をするなど、鑑賞のための準備を行います。また、歌い方やその姿勢など普段にも活かせるアドバイスを行います。 ↓ ・公演プログラム送付 各学校に公演鑑賞の手助けとなる公演プログラムの事前配布をお願いします。鑑賞への心の準備をしてもらい、期待を膨らませます。 ・最終段取りの確認 公演実施にあたっての細かな最終打ち合わせを実施します。 ↓ ◆公演当日◆
--	--